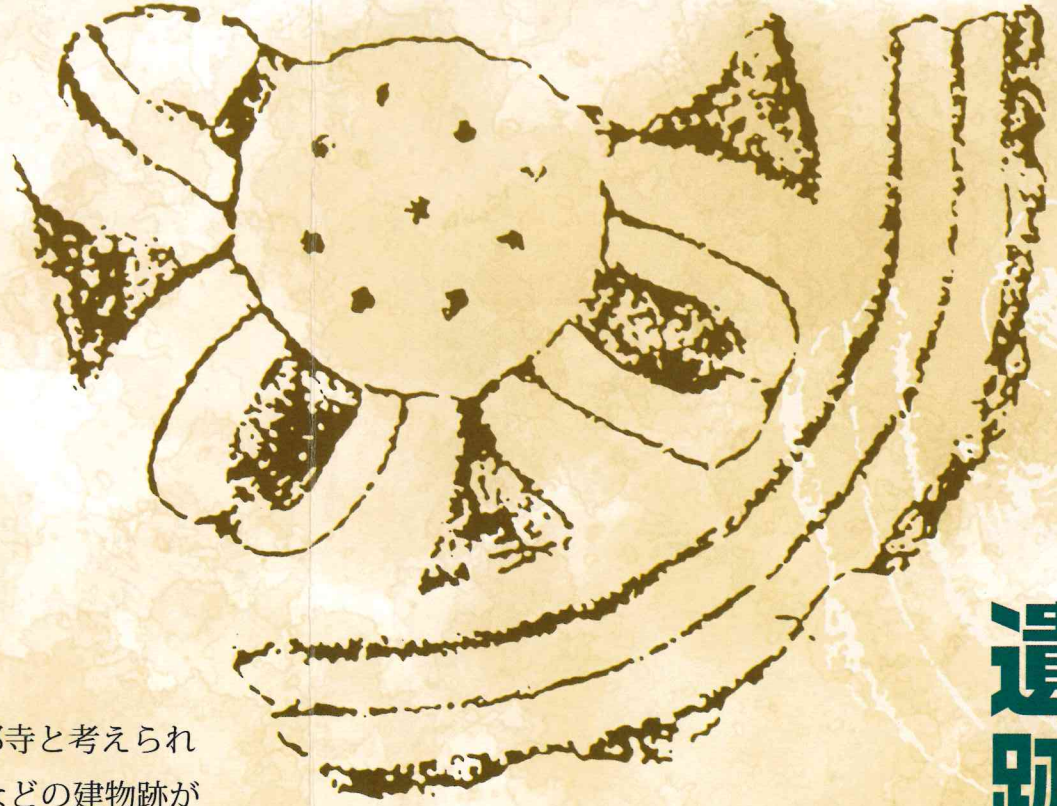
平成三十年度　出土遺物公開展

八重原公民館の下に遺跡があった!?



平成７年度に八重原公民館建設に伴って発掘調査された南子安金井崎遺跡では、様々な時代の痕跡が見つかっています。

特に奈良・平安時代の遺構としては、竪穴住居跡だけでなく掘立柱建物跡も多く見られ、東側に隣接した九十九坊廃寺に関連した遺跡であることがわかりました。

県指定史跡　九十九坊廃寺阯
（昭和10年12月24日指定）

九十九坊廃寺

７世紀の終わりごろに創建された上総国周淮郡の郡寺と考えられる遺跡です。これまでの発掘調査で講堂や塔、中門などの建物跡が見つかっており、西側に塔を置いた法隆寺式の伽藍配置を想定しています。今でも周辺には、数多くの瓦片をみることができます。

現在、塔跡を含む一部が県の指定史跡となっています。

八重原公民館の下に遺跡があった!?

アピタ君津店	８月７日（火）～８月12日（日）
君津市立中央図書館	８月14日（火）～９月２日（日）

写真・資料　君津市教育委員会
編集・発行　君津市教育委員会生涯学習文化課

平成30年８月６日発行

調査区域の上空写真

調査地周辺図(1/5,000)

発掘調査の結果、奈良・平安時代の竪穴住居跡 24 軒・掘立柱建物跡 40 棟以上・土坑 27 基・溝跡 1 条が検出されました。

掘立柱建物跡が多いことが特徴で、これらの建物跡は、ほぼ同位置に複数回の建替えが認められます。建物の位置や方向が規則的に配置されていることから立地条件に制約があったと考えられます。

また、鍛冶工房跡やベンガラの付着した土器（塗彩工程中にパレットとして使用したと考えられる）が出土していることから、生産に関する施設があったと見られ、ここで作られた製品を隣接する九十九坊廃寺に供給していたことが想定されます。

「副ヵ内」

墨書土器

土器に墨で文字が書かれた「墨書土器」が出土しています。これら土器には「副ヵ内」、「内」、「加」、「加安」「十万」、「集」と書かれています。なかでも、「加」は「弘」の異体字であり、「弘安」という僧名を記していると考えられます。

掘立柱建物跡

地面に穴を掘りくぼめて、その穴に柱を立てた建物を掘立柱建物といいます。他の遺跡でも見つかることはありますが、それらの多くは柱穴が小さく建物の方向が一定ではありません。南子安金井崎遺跡の掘立柱建物跡は、主に北北東方向に向いており、柱穴も大きいです。

南子安金井崎遺跡から出土した九十九坊廃寺の軒丸瓦

飛鳥時代から奈良・平安時代にかけては、寺院などの重要な建物だけに瓦が使われます。また、軒丸瓦の文様は寺院ごとに異なっています。この瓦は、「三重圏文縁四葉単弁蓮華文」といわれる文様です。

鍛冶工房跡

刀子や釘といった製品のほか、厚みが異なる鍛造剥片・粒状滓などが多量に出土していることから、鍛錬鍛冶の工程を全般的に行っていたと想定されます。製鉄に関しては、水が必要なことから厳島神社（内みのわ運動公園内）付近を水源地とする沢の斜面部に製錬炉があった可能性もあります。